

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福社会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」		
所在地	岡山県倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「明るい笑顔、元気な挨拶、丁寧な仕事」を念頭におき、明るく楽しい家庭的な雰囲気作りと、入居者様個々の自分らしい生活を大切にしていけるよう心掛けています。サービス計画に「心を元気にするメニュー」を取り入れて、その方の尊厳を大切にしながら、心を込めて支援していくことを運営の基本としています。「なごみの家」で入居者全員が役割をもって楽しく、張りのある毎日が過ごせるよう、個々の思いに寄り添い支援しています。コロナも5類へと移行し以前と少しでも同じように過ごしていただきたく思い、面会も再開致しました。家族や大切な人との交流、地域とのつながりが持てるよう、四季折々にユニットでの外出行事、年間行事も再開致しました。入居者様ひとりひとりが心身ともに元気でいられるよう、関わりを多くもち、安心・満足・信頼が持てる時間、「心のケア」を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200248-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 2 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営の基本としている「利用者の尊厳を大切にしながら、心を込めて支援していく」のもと、管理者を中心にホーム一丸で毎日のケアに臨んでいる。利用者の心に寄り添ったケアを目指し、レクリエーション、外出等の充実を可能な限り進め、外部とのつながりや、気分転換になるよう努めている。近隣の観光地や公園に出かけたり、コンビニエンスストアに、散歩を兼ねて出かけている。施設内も清潔感があり、利用者と職員の共同作業による、季節を感じる展示物もリビングの壁に飾られている。廊下やリビングには明り取りの窓があり、開放的なスペースとなっており、「なごみの家」の名前通り、利用者は日中はリビングでゆったりと過ごしている。訪問の際にも、利用者は、クリスマスツリーの飾り付けを、職員とともに、会話を楽しみながら、みんなでしていた。利用者の楽しみの一つである食事にも力を入れており、食材の調達から調理まで施設が行っている。行事食の企画も多く充実しており、ちらし寿司、おせち料理、夏場のそうめん流しなど、利用者の要望も取り入れたメニューを提供している。職員の年齢層は幅広いが、風通しのよい職場で、ケアマネージャーや看護師など専任職員によるアドバイスも取り入れており、利用者や家族が安心できる介護が行われている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議、ユニット会議等の時に再確認し、実践している。	理念は事務所に掲示している。全体会議の際に、理念を振り返って、日頃から意識できているかの確認をしている。リビングにいた職員や利用者は、明るく元気で笑顔で過ごしていて、理念が実践できている裏付けとなった。新人職員には、リーダーやサブリーダーがーから教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回ボランティアの方が散髪に来られている。	コロナ禍でも、感染対策をした上で散髪に来て頂けた。行事の際には、ダンスや歌のボランティアの方が来て、利用者は大いに喜んだ。近隣住民や理事長から野菜や果物の差し入れがあり、散歩時には、出会った方と挨拶を交わしている。Instagramを活用して外部に情報発信をしている。	地域との関わりを深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ホームページ、Instagramで情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や入居者様の日常の様子を伝え、様々な助言を頂いている。災害時の緊急避難場所など、地域に密着した内容の他にも、レクリエーションや食事形態など多岐にわたり話題が充実している。	高齢者支援センター、老人クラブ、土木委員、民生委員、同法人内の他施設の職員、家族代表が参加し、入居者状況、行事報告を行った。なごみの家だよりにて、利用者の様子がわかるように写真を付けている。他施設の情報交換や避難訓練についての意見が飛び交った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で、民生委員・土木委員・地域包括支援センターの方に参加して頂き、事業所の取り組み等を伝えている。分かりやすい方法として、月別、行事別など写真を取り入れて話をしている。	窓口は管理者。役所とのやり取りは基本メールで返信している。実地指導の際に、役所に直接出向き、質問や相談したら親切・丁寧に答えて頂けた。介護保険更新の際には、ケアマネジャーが直接、役所に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、全体会議での研修で身体拘束について3ヶ月に1回研修を行い全職員が周知している。またマニュアルを作成し、事業所内にいつでも観覧できるようにしている。	委員会では、身体拘束と虐待についての知識を深めている。スピーチロックについても細心の注意を払っていて、声が大きくならないように配慮し、「ちょっと待って」の後に、必ず理由を言うように心掛けている。グレーゾーンに関しても、実際に施設で起きた事例を取り上げて職員同士で考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、全体会議で身体拘束・虐待防止についての研修を行っている。また高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも観覧できるように置いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修・施設内研修で権利擁護等について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行って頂いている。契約後もいつでも質問等に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見が述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。請求書と共に意見・要望用紙を送付したり、電話連絡の際にご意見が頂けるよう声掛けを行っている。	面会は、感染対策をした上で、対面式で居室にて可能。家族や親戚だけでなく友人も来られて、笑顔の様子の写真が飾られていた。SNSを活用して写真や動画を家族に直接送ったら、様子がわかると喜んで頂けた。郵送物に意見用紙を同封して、「ありがとう」と感謝の言葉が職員の励みとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では事前に職員の意見や要望を議題に上げて、質問に答え、業務にも反映させている。	職員の年齢層が20代～70代と幅が広いが、職員間の仲は良く、何でも言える関係となっている。全体会議では、事前に情報を吸い上げるように工夫している。年2回、各ユニットリーダーと管理者が個別面談を行い、利用者の個別ケアに対する意見が出る。職員の希望休や有給の消化や誕生日休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを活用し、個人の目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度や実績についても評価し、賞与等に反映させている。その他、必要時には随時、職員との面談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、資料を職員全員に回覧し周知している。また、個別に希望を取り入れ研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加し、情報交換を行っている。また、他事業所の運営推進会議に出席し、同業者や地域のネットワークを広げている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問し、入居者の情報を職員間で共有している。環境(場所や対人関係)が変わることによって不安にならないよう、コミュニケーションの場を増やし、なじみの関係になれるように尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にも家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それをケアプランや処遇に反映させ、支援を行っている。また入居後には状態の変化に伴い、ユニット会議でプランの見直しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、実践している。また、様々な角度から必要な支援を検討し、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立った考え方、心に寄り添ったケアを行うように努め、家族として皆で協力し助け合い、ひとりひとりが生きがいを感じ、心地よい居場所であるよう関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にする為、毎月家族に入居者の様子を写真入りの連絡表で伝えている。入居者の体調や様子の変化がある時はその都度家族に連絡を取っている。また、遠方の家族からプレゼントが届いた時はお礼の電話をかけたりと、家族と入居者のつながりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、昔からの友達等、面会に来られ交流を図れる場を設けている。誕生日など個別で外出にも出かけ、ご家族とのつながりを持つ機会を作っている。	感染対策をした上で、対面式で居室での面会が可能。家族や親戚だけでなく友人も来られて、笑顔の様子の写真が飾られていた。家族との外出も可能で、電気屋さんの帰りや皮膚科で治療した後に、外食を楽しんだ方もいる。写真を撮るのが好きな利用者は、夫婦で後樂園へ出掛け、思い出の1ページを刻んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、穏やかな空間になるようフロアでの席も配慮している。また入居者が興味ある事を、関わりの中から見つけ、職員が間に入り入居者同士のつながりが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に行ったり、いつでも電話等でご家族が相談でき、安心できるように体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人、ご家族とのコミュニケーションの中から、本人の意向や思いを知り、支援内容を提示し実行している。個別で塗り絵、散歩、その他本人が興味を持っている事などを提供している。また、入居者とじっくり関わる時間も積極的にとるようにしている。	入居時にフェイスシートにて、家族構成や趣味などを把握している。牛乳が苦手な方へは、砂糖を入れて味変したら喜んで飲み干した。起床時間が遅い方へは、本人の生活スタイルに合わせている。饅頭を持って行ったら笑顔で「煎餅がいいんじゃない」と言われて、要望を叶えたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、家族や入居者とのコミュニケーションを通し、その人らしく、生き生きとした生活が出来るための支援内容を検討し、実施している。他事業所と情報の共有も行き参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の立場に立った考え方、寄り添うケアを行うように努めている。言葉、行動などから、思いを理解し、記録に残し、問題点はユニット会議で話し合い、心を元気にする職員の統一したケアが出来るよう、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。モニタリングにより、介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、結果を記録に残し活用している。	介護計画は、タブレットとパソコンで管理している。サービス内容をモニタリングに直接反映させている。毎日モニタリングを実施して、半年毎にまとめている。プラン作成時には、各ユニットリーダーを中心に、検討内容について話し合いを行い、ケアマネジャーが取りまとめている。プランは家族にも確認して頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテを導入し、いつでもケアプランの内容の確認が出来るようにしている。それにより、プランの内容に沿ったケアの実践に結びついてきている。また、定期的にカンファレンスを行い、介護計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の思いや介護のニーズを引き出し、カンファレンスにより、その思いを職員間で共有し、添えるように援助している。また、看取りケアの対応にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の散歩を通し、地域の方と挨拶を交わす等少しでも交流の機会を設けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応の協力医療機関と契約している。体調不良時等すぐに連絡が取れて、入居者や家族、職員も安心できている。本人、家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂き、受診時に手紙にて様子を伝えている。	入居時にかかりつけ医は選べ、全員が協力医に転医している。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で利用者は笑顔になっている。訪問歯科も可能で必要に応じて来て頂ける。看護師が週4回勤務しているので、安心できる体制となっている。他科受診の基本は家族の方をお願いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故が遭った際には、必ず医師及び看護師に連絡し、支持を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力医療機関連絡し、往診を依頼している。また、体調管理を行う中での注意事項など、情報を共有し、職員の知識のスキルアップにも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には面会、もしくは病院や家族に連絡し、情報収集を行っている。退院前には、主治医・ソーシャルワーカーと連携をとり、カンファレンスを行い、ホームで対応が出来るように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における、見取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調管理を行う。体調に変化がある時は、主治医、職員、家族で話し合いを行い、今後の方針を決定している。看取りを希望された方には、穏やかな最期を迎えられるよう、職員全員で支援している。	ターミナルは実施可能だが、ここ数年はなかった。看取りを経験している職員がいるので心強い。終末期を迎えた際には、病院か同法人内の特養に移られる方が多い。入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」にて説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度家族やドクターを交えて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内研修で、事故発生時の対応については、研修を行っている。また、事務所内にマニュアルを常備し、職員がいつでも閲覧できる状態にしている。看護師を中心に全体会議やユニット会議で、対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼・夜想定、避難・誘導訓練、水消火器による消火訓練を入居者も参加して実施している)。消防署、防災会社の方にも協力していただき、通報訓練も行っている。水害訓練も行い避難経路の確認、備蓄食材の確認等の対策を行っている。	年2回昼夜想定で火災・水害訓練を実施し、利用者も一緒に避難することができた。火災訓練時には消防の方に来て頂き、水消火器の使い方を学んだ。備蓄は各ユニットの畳のスペースに、缶詰、レトルト食品、水などを3日分保管している。賞味期限間近の物は、利用者と一緒に食している。	災害対策について今一度見直してみたいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、一人一人に合ったケアを実践し、羞恥心やプライバシーにも配慮した声掛けを行っている。また、入居者同士の相性にも気を配り、居心地良くフロアで過ごせる工夫をしている。	呼称の基本は、苗字に「さん」付けで、夫婦の方は下の名前でも「さん」付けで呼んでいる。反応が良い場合には、別の呼び方で呼ぶ場合もある。リビングの座席は、利用者同士が不穏にならないように気を遣っている。排泄失敗時には、「ズボンを変えよう」となどと違う会話にすることで、気を紛らわせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族に好みや趣味を尋ね、日常生活の中で取り組めるよう支援している。食事の量やおやつ の選択、飲み物の選択等、希望を引き出せるよう な関わりを持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重できるよう訴えを傾聴し、居 心地の良い場所を見つけられるように支援してい る。また、個別に散歩や日光浴等を取り入れ、気 分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	本人が好む服の組み合わせを選んだり、季節に よって衣類の調整も行っている。散髪のボランティ アの受け入れも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準 備や食事、片付けをしている	栄養士による基本の献立はあるが、入居者が希望 する料理を作ったり、食べたいものがあれば購入 している。季節感を味わえる工夫をし、調理、盛り 付け、片付けも分担して一緒に行っている。おせち 料理作りは毎年定着している。	食材は職員が買い出しに出掛け、法人内の管理 栄養士にメニューの相談をしている。評価当日 は、利用者が下ごしらえをした餃子が並んだ。行 事食として、お節や巻き寿司、流しそうめんを提 供して、季節感を味わって頂いている。また、近隣 住民や施設長から頂いた野菜が食卓を彩ってい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事、おやつの際には、水分・汁物を無理なく飲ん でいただくよう声掛けをし、個々に合った食事量・1 日の水分摂取量を把握し管理している。また、その 方に合った食事形態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食前には、嚥下体操を行い嚥下機能保持を支援し ている。食後は、口腔ケアを行い、自力で出来る方 にはご自分で口腔ケアを行って頂き、出来ない所 を職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合った排泄ケアを行っている。日中定時 のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が維持でき るよう支援している。夜間も個々に統一してトイレ 誘導、パット更新を行い、不快なく入眠できるよう 支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表は紙 媒体で記入し、タブレットに入力して情報の共有を している。入居時にリハパンだった方が、布パン ツに改善された事例もあり、布パンツで過ごされ ている方も6名いる。夜間のみPTイレを使用して いる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を献立に取り入れ、冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、出来る限り自然な排便を促すようにしている。また、散歩や運動中心のレクリエーションも取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めているが、入居者の思いにより、入浴日以外に入浴も可能である。拒否の強い入居者も職員の関わり方、声掛けの工夫で気持ちよく入浴が出来るようになっている。成功例の共有をしっかりと行っている。	入浴は週2回で、平均25分くらいの時間を取っている。入浴を拒否される場合には、「ついて来て欲しいところがある」と言葉掛けをしたり、職員や時間帯を変えたりして対応している。入浴剤の使用や季節湯としてゆず湯も提供している、成功した言葉掛けは職員間で共有して、次のケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせた、入眠時間のタイミングや会話、声掛け等の支援を行っている。両ユニットとも、必要な方に対して、昼食後1時間程度のお昼寝タイムを作り、午後からも活動的に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、薬の名前・用法についてその都度理解・確認をしている。新しい薬が処方されたときは、主治医・家族に状態などを伝え、看護師より職員に情報を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が、家事作業を得意とされ、積極的に行っている。ちぎり絵等の作品を職員と一緒に作成し、文化展に出展する目標を持ち取り組んでいる。個々の思い、レベルに合った内容のものを提供していくことで、無理なく楽しみながら、取り組めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類となった為、感染対策をとりながら、各ユニットでの外出行事や外食も行っている。ご家族の参加もお願いし楽しい時間を共有している。また、周辺を散歩することで四季を味わい気分転換を図っている。	誕生日には夫婦で利用されている方と一緒に後楽園へ行き、写真を撮った。灘崎のサウスヴィレッジへ買い物に出掛けた。家族同伴での外出や外食は可能としている。足守にある近水公園を散歩をしたり、国分寺の五重塔を眺めたりした。また、吉備津彦神社へ初詣に出掛ける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失・トラブルが起きないように入居者に合わせた支援を行っている。家族よりお金を預かってある事を伝え、好きなものを購入できることを説明し、いつでも好きな物を購入できる態勢を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、家族や知人に電話を掛けたいとの申し出があれば応じている。年賀状や暑中お見舞いなど家族や知人とのやり取りを行えるよう支援している。プレゼント等が届いた時にもお礼を直接電話で伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、居室・フロア・玄関等の掃除、夜もフロアの掃除は欠かさず行っている。また、壁面には毎月、入居者と製作した季節を感じる事の出来る作品を掲示している。玄関には入居者が作った作品を展示していることもある。	ベランダからは長閑な田園風景が広がり、季節感が味わえる開放的な空間となっていて、気候のいい時期には外気に触れて、日光浴を楽しんでいる。廊下を中心に壁面には、職員と一緒に作成した作品数多く展示され、四季折々を感じられる。評価当日は、餃子作りやクリスマスの飾りつけを笑顔で行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を配慮し、基本、気の合う入居者と過ごせるようにしている。トラブルや不都合が起きた際には、職員の介入や席替え等で不穏なく過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた馴染みのあるものを持ってきて頂き、落ち着いて生活が出来るように支援している。手芸の作品を持ち込まれたり、自宅で使用していた筆筒を持ち込まれたりしている入居者もいる。	備え付けは、ベッド・カーテン・エアコン・ヘッドライト・洗面台。部屋には家族の写真や小説、ぬいぐるみなどの馴染みの物が持ち込まれている。また、故郷を紹介した雑誌があり、個性を大切に居室内にも温かみを感じられた。清掃も行き届いていて、清潔さが保たれた居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のその日の体調、思いに寄り添い一緒に料理・洗濯等を行い、助け合い役割を持って協力して生活する事を工夫して支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200248		
法人名	社会福祉法人 和福社会		
事業所名	グループホーム庄の里「なごみの家」		
所在地	岡山県倉敷市西尾11-1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 20 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「明るい笑顔、元気な挨拶、丁寧な仕事」を念頭におき、明るく楽しい家庭的な雰囲気作りと、入居者様個々の自分らしい生活を大切にしていけるよう心掛けています。サービス計画に「心を元気にするメニュー」を取り入れて、その方の尊厳を大切にしながら、心を込めて支援していくことを運営の基本としています。「なごみの家」で入居者全員が役割をもって楽しく、張りのある毎日が過ごせるよう、個々の思いに寄り添い支援しています。コロナも5類へと移行し以前と少しでも同じように過ごしていただきたく思い、面会も再開致しました。家族や大切な人との交流、地域とのつながりが持てるよう、四季折々にユニットでの外出行事、年間行事も再開致しました。入居者様ひとりひとりが心身ともに元気でいられるよう、関わりを多くもち、安心・満足・信頼が持てる時間、「心のケア」を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200248-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 2 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営の基本としている「利用者の尊厳を大切にしながら、心を込めて支援していく」のもと、管理者を中心にホーム一丸で毎日のケアに臨んでいる。利用者の心に寄り添ったケアを目指し、レクリエーション、外出等の充実を可能な限り進め、外部とのつながりや、気分転換になるよう努めている。近隣の観光地や公園に出かけたり、コンビニエンスストアに、散歩を兼ねて出かけている。施設内も清潔感があり、利用者と職員の共同作業による、季節を感じる展示物もリビングの壁に飾られている。廊下やリビングには明り取りの窓があり、開放的なスペースとなっており、「なごみの家」の名前通り、利用者は日中はリビングでゆったりと過ごしている。訪問の際にも、利用者は、クリスマスツリーの飾り付けを、職員とともに、会話を楽しみながら、みんなでしていた。利用者の楽しみの一つである食事にも力を入れており、食材の調達から調理まで施設が行っている。行事食の企画も多く充実しており、ちらし寿司、おせち料理、夏場のそうめん流しなど、利用者の要望も取り入れたメニューを提供している。職員の年齢層は幅広いが、風通しのよい職場で、ケアマネージャーや看護師など専任職員によるアドバイスも取り入れており、利用者や家族が安心できる介護が行われている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念をスタッフルームに掲示し、全体会議、ユニット会議等の時に再確認し、実践している。	理念は事務所に掲示している。全体会議の際に、理念を振り返って、日頃から意識できているかの確認をしている。リビングにいた職員や利用者は、明るく元気で笑顔で過ごしていて、理念が実践できている裏付けとなった。新人職員には、リーダーやサブリーダーがーから教えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2ヶ月に1回ボランティアの方が散髪に来られている。	コロナ禍でも、感染対策をした上で散髪に来て頂いた。行事の際には、ダンスや歌のボランティアの方が来て、利用者は大いに喜んだ。近隣住民や理事長から野菜や果物の差し入れがあり、散歩時には、出会った方と挨拶を交わしている。インスタグラムを活用して外部に情報発信をしている。	地域との関わりを深めてみてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌、ホームページ、インスタグラムで情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、「なごみの家」の活動状況や入居者様の日常の様子を伝え、様々な助言を頂いている。災害時の緊急避難場所など、地域に密着した内容の他にも、レクリエーションや食事形態など多岐にわたり話題が充実している。	高齢者支援センター、老人クラブ、土木委員、民生委員、同法人内の他施設の職員、家族代表が参加し、入居者状況、行事報告を行った。なごみの家だよりにて、利用者の様子がわかるように写真を付けている。他施設の情報交換や避難訓練についての意見が飛び交った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、民生委員・土木委員・地域包括支援センターの方に参加して頂き、事業所の取り組み等を伝えている。分かりやすい方法として、月別、行事別など写真を取り入れて話をしている。	窓口は管理者。役所とのやり取りは基本メールで返信している。実地指導の際に、役所に直接出向き、質問や相談をしたら親切・丁寧に答えて頂いた。介護保険更新の際には、ケアマネジャーが直接、役所に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人・中途研修、全体会議での研修で身体拘束について3ヶ月に1回研修を行い全職員が周知している。またマニュアルを作成し、事業所内にいつでも観覧できるようにしている。	委員会では、身体拘束と虐待についての知識を深めている。スピーチロックについても細心の注意を払っていて、声が大きくならないように配慮し、「ちょっと待って」の後に、必ず理由を言うように心掛けている。グレーゾーンに関しても、実際に施設で起きた事例を取り上げて職員同士で考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人・中途研修、全体会議で身体拘束・虐待防止についての研修を行っている。また高齢者虐待防止に関する資料を事業所内にいつでも観覧できるように置いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人・中途研修・施設内研修で権利擁護等について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、納得していただいた上で署名を行っている。契約後もいつでも質問等に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見が述べやすいように、玄関に意見箱を設置している。請求書と共に意見・要望用紙を送付したり、電話連絡の際にご意見が頂けるよう声掛けを行っている。満足度アンケートも実施している。	面会は、感染対策をした上で、対面式で居室にて可能。家族や親戚だけでなく友人も来られて、笑顔の様子の写真が飾られていた。SNSを活用して写真や動画を家族に直接送ったら、様子がわかると喜んで頂けた。郵送物に意見用紙を同封していて、「ありがとう」と感謝の言葉が職員の励みとなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議では事前に職員の意見や要望を議題に上げて、質問に答え、業務にも反映させている。	職員の年齢層が20代～70代と幅が広いが、職員間の仲は良く、何でも言える関係となっている。全体会議では、事前に情報を吸い上げるように工夫している。年2回、各ユニットリーダーと管理者が個別面談を行い、利用者の個別ケアに対する意見が出る。職員の希望休や有給の消化や誕生日休暇の取得もできている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標シートを活用し、個人の目標を立て、その達成度を賞与に反映させている。また、勤務態度や実績についても評価し、賞与等に反映させている。その他、必要時には随時、職員との面談も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を受け、資料を職員全員に回覧し周知している。また、個別に希望を取り入れ研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設外研修や外部との交流の場に参加し、情報交換を行っている。また、他事業所の運営推進会議に出席し、同業者や地域のネットワークを広げている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問し、入居者の情報を職員間で共有している。環境(場所や対人関係)が変わることによって不安にならないよう、コミュニケーションの場を増やし、なじみの関係になれるように尽くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居時にも家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それをケアプランや処遇に反映させ、支援を行っている。また入居後には状態の変化に伴い、ユニット会議でプランの見直しを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前、入居時に家族や本人の思いや要望、不安に思うこと等をお聞きし、それに沿ったケアプランや処遇を検討し、実践している。また、様々な角度から必要な支援を検討し、提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の立場に立った考え方、心に寄り添ったケアを行うように努め、家族として皆で協力し助け合い、ひとりひとりが生きがいを感じ、心地よい居場所であるよう関係づくりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にする為、毎月家族に入居者の様子を写真入りの連絡表で伝えている。入居者の体調や様子の変化がある時はその都度家族に連絡を取っている。また、遠方の家族からプレゼントが届いた時はお礼の電話をかけたりと、家族と入居者のつながりを大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、昔からの友達等、面会に来られ交流を図れる場を設けている。誕生日など個別で外出にも出かけ、ご家族とのつながりを持つ機会を作っている。	感染対策をした上で、対面式で居室での面会が可能。家族や親戚だけでなく友人も来られて、笑顔の様子の写真が飾られていた。家族との外出も可能で、電気屋さんの帰りや皮膚科で治療した後に、外食を楽しんだ方もいる。写真を撮るのが好きな利用者は、夫婦で後樂園へ出掛け、思い出の1ページを刻んだ。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、穏やかな空間になるようフロアでの席も配慮している。また入居者が興味ある事を、関わりの中から見つけ、職員が間に入り入居者同士のつながりが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も面会に行ったり、いつでも電話等でご家族が相談でき、安心できるように体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や本人、ご家族とのコミュニケーションの中から、本人の意向や思いを知り、支援内容を提示し実行している。個別で塗り絵、散歩、その他本人が興味を持っている事などを提供している。また、入居者とじっくり関わる時間も積極的にとるようにしている。	入居時にフェイスシートにて、家族構成や趣味などを把握している。牛乳が苦手な方へは、砂糖を入れて味変したら喜んで飲み干した。起床時間が遅い方へは、本人の生活スタイルに合わせている。饅頭を持って行ったら笑顔で「煎餅がいいんじゃない」と言われて、要望を叶えたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居にあたり、家族や入居者とのコミュニケーションを通し、その人らしく、生き生きとした生活が出来るための支援内容を検討し、実施している。他事業所と情報の共有も行き参考になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の立場に立った考え方、寄り添うケアを行うように努めている。言葉、行動などから、思いを理解し、記録に残し、問題点はユニット会議で話し合い、心を元気にする職員の統一したケアが出来るよう、情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議等で気づきを出し合い、介護計画に反映させている。モニタリングにより、介護計画の見直しを行い、より良い生活が送れるように支援し、結果を記録に残し活用している。	介護計画は、タブレットとパソコンで管理している。サービス内容をモニタリングに直接反映させている。毎日モニタリングを実施して、半年毎にまとめている。プラン作成時には、各ユニットリーダーを中心に、検討内容について話し合いを行い、ケアマネジャーが取りまとめている。プランは家族にも確認して頂いている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアカルテを導入し、いつでもケアプランの内容の確認が出来るようにしている。それにより、プランの内容に沿ったケアの実践に結びついてきている。また、定期的にカンファレンスを行い、介護計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の思いや介護のニーズを引き出し、カンファレンスにより、その思いを職員間で共有し、添えるように援助している。また、看取りケアの対応にも取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の散歩を通し、地域の方と挨拶を交わす等少しでも交流の機会を設けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	365日24時間対応の協力医療機関と契約している。体調不良時等すぐに連絡が取れて、入居者や家族、職員も安心できている。本人、家族の希望により、かかりつけ医を選択して頂き、受診時に手紙にて様子を伝えている。	入居時にかかりつけ医は選べ、全員が協力医に転医している。月2回の往診があり、ドクターとの関係も良好で利用者は笑顔になっている。訪問歯科も可能で必要に応じて来て頂ける。看護師が週4回勤務しているので、安心できる体制となっている。他科受診の基本は家族の方をお願いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	怪我や事故が遭った際には、必ず医師及び看護師に連絡し、支持を仰いでいる。状態によっては、看護師から協力医療機関連絡し、往診を依頼している。また、体調管理を行う中での注意事項など、情報を共有し、職員の知識のスキルアップにも繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時には面会、もしくは病院や家族に連絡し、情報収集を行っている。退院前には、主治医・ソーシャルワーカーと連携をとり、カンファレンスを行い、ホームで対応が出来るように体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における、見取り指針に沿って家族に説明を行い、随時体調管理を行う。体調に変化がある時は、主治医、職員、家族で話し合いを行い、今後の方針を決定している。看取りを希望された方には、穏やかな最期を迎えられるよう、職員全員で支援している。	ターミナルは実施可能だが、ここ数年はなかった。看取りを経験している職員がいるので心強い。終末期を迎えた際には、病院か同法人内の特養に移られる方が多い。入居時に「重度化した場合における対応に関わる指針」にて説明し、同意を得ている。重度化した際には、再度家族やドクターを交えて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時や施設内研修で、事故発生時の対応については、研修を行っている。また、事務所内にマニュアルを常備し、職員がいつでも閲覧できる状態にしている。看護師を中心に全体会議やユニット会議で、対応方法を確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼・夜想定、避難・誘導訓練、水消火器による消火訓練を入居者も参加して実施している)。消防署、防災会社の方にも協力していただき、通報訓練も行っている。水害訓練も行い避難経路の確認、備蓄食材の確認等の対策を行っている。	年2回昼夜想定で火災・水害訓練を実施し、利用者も一緒に避難することができた。火災訓練時には消防の方に来て頂き、水消火器の使い方を学んだ。備蓄は各ユニットの畳のスペースに、缶詰、レトルト食品、水などを3日分保管している。賞味期限間近の物は、利用者と一緒に食している。	災害対策について今一度見直してみてもいいかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者の人格を尊重し、一人一人に合ったケアを実践し、羞恥心やプライバシーにも配慮した声掛けを行っている。また、入居者同士の相性にも気を配り、居心地良くフロアで過ごせる工夫をしている。	呼称の基本は、苗字に「さん」付けで、夫婦の方は下の名前でも「さん」付けで呼んでいる。反応が良い場合には、別の呼び方で呼ぶ場合もある。リビングの座席は、利用者同士が不穏にならないように気を遣っている。排泄失敗時には、「ズボンを変えよう」となどと違う会話にすることで、気を紛らわせている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人や家族に好みや趣味を尋ね、日常生活の中で取り組めるよう支援している。食事の量やおやつ の選択、飲み物の選択等、希望を引き出せるよう な関わりを持つようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人 ひとりのペースを大切にし、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意思を尊重できるよう訴えを傾聴し、居 心地の良い場所を見つけられるように支援してい る。また、個別に散歩や日光浴等を取り入れ、気 分転換を図っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	本人が好む服の組み合わせを選んだり、季節に よって衣類の調整も行っている。散髪のボランティ アの受け入れも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準 備や食事、片付けをしている	栄養士による基本の献立はあるが、入居者が希望 する料理を作ったり、食べたいものがあれば購入 している。季節感を味わえる工夫をし、調理、盛り 付け、片付けも分担して一緒に行っている。おせち 料理作りは毎年定着している。	食材は職員が買い出しに出掛け、法人内の管理 栄養士にメニューの相談をしている。評価当日 は、利用者が下ごしらえをした餃子が並んだ。行 事食として、お節や巻き寿司、流しそうめんを提 供して、季節感を味わって頂いている。また、近隣 住民や施設長から頂いた野菜が食卓を彩ってい る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	食事、おやつの際には、水分・汁物を無理なく飲ん でいただくよう声掛けをし、個々に合った食事量・1 日の水分摂取量を把握し管理している。また、その 方に合った食事形態を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	食前には、嚥下体操を行い嚥下機能保持を支援し ている。食後は、口腔ケアを行い、自力で出来る方 にはご自分で口腔ケアを行って頂き、出来ない所 を職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひと りの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレ での排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合った排泄ケアを行っている。日中定時 のトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が維持でき るよう支援している。夜間も個々に統一してトイレ 誘導、パット更新を行い、不快なく入眠できるよう 支援している。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表は紙 媒体で記入し、タブレットに入力して情報の共有を している。入居時にリハパンだった方が、布パン ツに改善された事例もあり、布パンツで過ごされ ている方も6名いる。夜間のみPTイレを使用して いる方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食品を献立に取り入れ、冷たい牛乳やヨーグルトを提供し、出来る限り自然な排便を促すようにしている。また、散歩や運動中心のレクリエーションも取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を決めているが、入居者の思いにより、入浴日以外に入浴も可能である。拒否の強い入居者も職員の関わり方、声掛けの工夫で気持ちよく入浴が出来るようになっている。成功例の共有をしっかりと行っている。	入浴は週2回で、平均25分くらいの時間を取っている。入浴を拒否される場合には、「ついて来て欲しいところがある」と言葉掛けをしたり、職員や時間帯を変えたりして対応している。入浴剤の使用や季節湯としてゆず湯も提供している、成功した言葉掛けは職員間で共有して、次のケアに活かしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活リズムに合わせた、入眠時間のタイミングや会話、声掛け等の支援を行っている。両ユニットとも、必要な方に対して、昼食後1時間程度のお昼寝タイムを作り、午後からも活動的に過ごせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、薬の名前・用法についてその都度理解・確認をしている。新しい薬が処方されたときは、主治医・家族に状態などを伝え、看護師より職員に情報を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が、家事作業を得意とされ、積極的に行っている。ちぎり絵等の作品を職員と一緒に作成し、文化展に出展する目標を持ち取り組んでいる。個々の思い、レベルに合った内容のものを提供していくことで、無理なく楽しみながら、取り組めるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナも5類となった為、感染対策をとりながら、各ユニットでの外出行事や外食も行っている。ご家族の参加もお願いし楽しい時間を共有している。また、周辺を散歩することで四季を味わい気分転換を図っている。	誕生日には夫婦で利用されている方と一緒に後楽園へ行き、写真を撮った。灘崎のサウスヴィレッジへ買い物に出掛けた。家族同伴での外出や外食は可能としている。足守にある近水公園を散歩をしたり、国分寺の五重塔を眺めたりした。また、吉備津彦神社へ初詣に出掛ける予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の紛失・トラブルが起きないように入居者に合わせた支援を行っている。家族よりお金を預かってある事を伝え、好きなものを購入できることを説明し、いつでも好きな物を購入できる態勢を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から、家族や知人に電話を掛けたいとの申し出があれば応じている。年賀状や暑中お見舞いなど家族や知人とのやり取りを行えるよう支援している。プレゼント等が届いた時にもお礼を直接電話で伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝、居室・フロア・玄関等の掃除、夜もフロアの掃除は欠かさず行っている。また、壁面には毎月、入居者と製作した季節を感じる事の出来る作品を掲示している。玄関には入居者が作った作品を展示していることもある。	ベランダからは長閑な田園風景が広がり、季節感が味わえる開放的な空間となっていて、気候のいい時期には外気に触れて、日光浴を楽しんでいる。廊下を中心に壁面には、職員と一緒に作成した作品数多く展示され、四季折々を感じられる。評価当日は、餃子作りやクリスマスの飾りつけを笑顔で行っていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を配慮し、基本、気の合う入居者と過ごせるようにしている。トラブルや不都合が起きた際には、職員の介入や席替え等で不穏なく過ごせるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた馴染みのあるものを持ってきて頂き、落ち着いて生活が出来るように支援している。手芸の作品を持ち込まれたり、自宅で使用していた筆筒を持ち込まれたりしている入居者もいる。	備え付けは、ベッド・カーテン・エアコン・ヘッドライト・洗面台。部屋には家族の写真や小説、ぬいぐるみなどの馴染みの物が持ち込まれている。また、故郷を紹介した雑誌があり、個性を大切に居室内にも温かみを感じられた。清掃も行き届いていて、清潔さが保たれた居室であった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のその日の体調、思いに寄り添い一緒に料理・洗濯等を行い、助け合い役割を持って協力して生活する事を工夫して支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				